

■帝王賞(Jpn I)アラカルト(過去10年の分析)

※平成19年(2007年)からダートグレード競走の格付け表記が変更

(一部競走がGからJpnに変更)

※記録は6月10日時点のもの

■ダートG I・Jpn Iの優勝馬に注目

※8勝、2着10回、3着6回の好走実績を誇る。

- ◇第29回優勝 アジュディミツオー(かしわ記念、川崎記念)
 - 〃 2着 カネヒキリ(フェブラリーステークス)
- ◇第30回2着 ブルーコンコルド(かしわ記念)
 - 〃 3着 サンライズバッカス(フェブラリーステークス)
- ◇第31回優勝 フリオース(前年のジャパンダートダービー)
 - 〃 2着 ボンネビルレコード(かしわ記念)
- ◇第32回優勝 ヴァーミアン(JBCクラシック)
 - 〃 2着 フリオース(帝王賞)
 - 〃 3着 ボンネビルレコード(かしわ記念)
- ◇第33回優勝 フリオース(帝王賞)
 - 〃 2着 カネヒキリ(川崎記念、東京大賞典、ジャパンカップダート)
 - 〃 3着 ボンネビルレコード(かしわ記念)
- ◇第34回優勝 スマートファルコン(JBCクラシック、東京大賞典)
 - 〃 2着 エスポワールシチー(フェブラリーステークス、かしわ記念、ジャパンカップダートなど)
- ◇第35回2着 エスポワールシチー(フェブラリーステークス、かしわ記念、ジャパンカップダートなど)
 - 〃 3着 テスタマッタ(ジャパンダートダービー、フェブラリーステークス)
- ◇第36回優勝 ホッコータルマエ(かしわ記念)
 - 〃 2着 ニホンピロアワーズ(ジャパンカップダート)
 - 〃 3着 ワンダーアキュート(JBCクラシック)
- ◇第37回優勝 ワンダーアキュート(JBCクラシック)
 - 〃 2着 コパノリッキー(フェブラリーステークス、かしわ記念)
- ◇第38回優勝 ホッコータルマエ(東京大賞典、チャンピオンズカップ、川崎記念など)
 - 〃 2着 クリソライト(前々年のジャパンダートダービー)
 - 〃 3着 ハッピープリント(前々年の全日本2歳優駿)

■ダートG I・Jpn I 3着以上の実績が好走の条件

※3着内馬30頭中28頭にダートG I・Jpn Iで3着以上の実績があった。

※例外の2頭は、第31回3着コウエイノホシ、第35回優勝ゴルトブリッツ。コウエイノホシは前走の大井記念で1着。ゴルトブリッツはJRAダート・オープンを連勝中だった。

■6勝以上の実績馬が好走

※3着以内の30頭中28頭が該当。例外は第31回優勝のフリオーソ(5勝)と第34回3着のバーディバーディ(5勝)の2頭。

■優勝馬を出したステップレース(前走)は多岐に亘る

- ◇かしわ記念 4勝、2着8回、3着4回
- ◇ダイオライト記念 2勝、2着0回、3着0回
- ◇ブリリアントステークス 1勝、2着0回、3着1回
- ◇ドバイワールドカップ 1勝、2着1回、3着0回
- ◇フェブラリーステークス 1勝、2着0回、3着1回
- ◇アンタレスステークス 1勝、2着0回、3着0回
- ◇大井記念 0勝、2着0回、3着2回

※他に2着馬を出した平安ステークス、3着馬を出したオアシスステークス、名古屋大賞典がある。

■過去の帝王賞の好走馬が再び活躍

- ◇カネヒキリ 第29回2着→第33回2着
- ◇ボンネビルレコード 第30回優勝→第31回2着→32回3着→第33回3着
- ◇フリオーソ 第31回優勝→第32回2着→第33回優勝
- ◇エスポワールシチー 第34回2着→第35回2着
- ◇ワンダーアキュート 第36回2着→第37回優勝
- ◇ホッコータルマエ 第36回優勝→第38回優勝

※ただし過去に連覇は一度もない。

■前年の東京大賞典の上位馬に要注意

- ◇第31回 フリオーソ 東京大賞典2着→帝王賞優勝
- ◇第32回 ヴァーミアン 東京大賞典2着→帝王賞優勝
- ◇第34回 スマートファルコン 東京大賞典1着→帝王賞優勝
- ◇第35回 テスタマッタ 東京大賞典3着→帝王賞3着
- ◇第36回 ワンダーアキュート 東京大賞典3着→帝王賞3着
- ◇第37回 ワンダーアキュート 東京大賞典2着→帝王賞優勝
- ◇第38回 ホッコータルマエ 東京大賞典1着→帝王賞優勝

※昨年の東京大賞典の上位馬は、1着サウンドトゥルー、2着ホッコータルマエ、3着ワンダーアキュート

■かしわ記念出走組が10年連続で馬券圏内を確保

※5勝、2着8回、3着4回と好成績。また10年連続で連対中。

※今年のかしわ記念の上位馬は1着コパノリッキー、2着ソルテ、3着ベストウォーリア。

■同年のフェブラリーステークス出走組が好成績

※優勝3回、2着4回、3着5回と好走している。

■JRA所属馬が7勝でリード

◇JRA所属馬 7勝、2着9回、3着7回

◇地方所属馬 3勝、2着1回、3着3回

※JRA所属馬が連対しなかった年は一度もない。つまり地方所属馬のワンツーは一度もない。

※JRA所属馬のワンツーは6度ある。

※またJRA所属馬のワンツースリーは5度ある。

■南関東所属以外の地方馬は4着が最高

※第30回チャンストウライ《兵庫》、第31回マルヨフェニックス《笠松》の4着が最高成績。

■5歳・6歳馬が3勝でリード

◇4歳馬 2勝、2着2回、3着2回。3着内率 20.0%

◇5歳馬 3勝、2着2回、3着2回。3着内率 23.3%

◇6歳馬 3勝、2着3回、3着2回。3着内率 26.7%

◇7歳馬 1勝、2着2回、3着3回。3着内率 20.0%

◇8歳馬 1勝、2着1回、3着1回。3着内率 10.0%

■前2走とも掲示板(5着)を外していた馬はいない

※3着内馬 30頭中 30頭すべてが前2走いずれかで掲示板を確保。

※前2走とも4着以下だった馬は第32回3着のボンネビルレコード1頭のみ。

※前2走を連勝して3着以内に入ったのは30頭中6頭のみ。第29回優勝アジュディミツオー、第31回3着コウエイノホシ、第34回優勝スマートファルコン、第35回優勝ゴルトブリッツ、第36回優勝ホッコータルマエ、第37回2着コパノリッキー

■1番人気馬の3着内率は90%と高い

◇1番人気馬 4勝、2着5回、3着0回。3着内率 90.0%

◇2番人気馬 2勝、2着2回、3着0回。3着内率 40.0%

◇3番人気馬 2勝、2着1回、3着3回。3着内率 60.0%

※4~6番人気馬が3着以内に入らなかったのは、第34回と第35回のみ。

※1番人気馬と2番人気馬がそろって3着以内を確保したのは4回。

■外国産馬は、7頭が出走して3着1回

※第35回3着テストマッタ

■牝馬の優勝はなし

※7頭が出走して優勝馬はまだいない。

■武豊騎手が3勝

※武豊騎手は第 32 回、第 34 回、第 37 回で優勝。

※これに第 31 回、第 33 回優勝の戸崎圭太、第 36 回、第 38 回優勝の幸英明騎手の2勝が続く。

■川島正行調教師が最多の3勝

※川島正行調教師は第 29 回、第 31 回、第 33 回で優勝。

※さらに 2 着 1 回の好成績を残している。

■①番と④番が2勝ずつ

馬番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
1着	2	1	0	2	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0
2着	0	0	1	0	1	2	1	1	0	0	2	0	1	1	0	0
3着	1	0	2	1	2	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0

■帝王賞(Jpn I)アラカルト(過去全 38 回の分析)

※第 1 回から第 8 回までは 2800m で実施

※第 9 回から中央競馬招待競走で実施

※第 18 回から指定交流競走で実施

※第 15 回は 1 着同着のため優勝馬は 39 頭、2 着馬は 37 頭

※第 9 回は 3 着同着のため 3 着馬は 39 頭

※記録は 6 月 10 日時点のもの

■1 番人気馬の勝率は 34.2% と低い

◇1 番人気馬 13 勝、2 着 9 回、3 着 4 回。3 着内率 68.4%

◇2 番人気馬 7 勝、2 着 5 回、3 着 1 回。3 着内率 34.2%

◇3 番人気馬 6 勝、2 着 7 回、3 着 7 回。3 着内率 52.6%

※ただし単勝支持率 40% 以上の 1 番人気馬の場合は 17 頭が出走して 9 勝、2 着 5 回、3 着 2 回と好成績。3 着を外したのは第 26 回ゴールドアリュール(14 着)のみ。

■人気上位 5 頭でのワンツー決着は 68.4%

※38 回中 26 回は 5 番人気以内の馬によるワンツー。

■3 番人気以内の馬から優勝馬が出る確率も 68.4%

※38 回中 26 回は 3 番人気以内の馬による優勝。

■上位人気 3 頭によるワンツースリー決着は 2 回のみ

※第 34 回、第 35 回と連続して上位人気 3 頭によるワンツースリーだった。

■連覇した馬は皆無

※ ただフリオーソは 2 度の優勝と、2 着 1 回で 3 年連続連対を確保。

※ チャンピオンスターが第 11 回と第 14 回に優勝。

※ ホッコータルマエは第 36 回と第 38 回に優勝。

■牝馬は 4 勝

◇第 5 回 コーナシルビー

◇第 19 回 ホクトベガ

◇第 23 回 ファストフレンド

◇第 26 回 ネームヴァリュウ

※牝馬が優勝すれば 13 年ぶり 5 度目。

■外国産馬は 2 着が最高

◇第 21 回 2 着 バトルライン(米国産)

◇第 23 回 2 着 ドラールアラビアン(米国産)

■5歳馬が一步リード

- ◇4歳馬 10勝
- ◇5歳馬 12勝
- ◇6歳馬 11勝
- ◇7歳馬 5勝
- ◇8歳馬 1勝

※優勝馬が39頭いるのは1着同着があるため。

※9歳以上が優勝すれば史上初。

■地方勢とJRA勢はほぼ互角

※JRA所属馬との交流戦になった第9回以降、過去30回分のデータ。

(優勝馬と3着馬は同着があるため31頭)

- ◇地方所属馬 14勝、2着11回、3着17回
- ◇JRA所属馬 17勝、2着18回、3着14回

■東京大賞典との関連

◇前年の東京大賞典を制した馬の優勝は4頭

第6回トラストホーク ←東京大賞典(昭和57年)

第29回アジュディミツオー ←東京大賞典(平成17年)

第34回スマートファルコン ←東京大賞典(平成22年)

第38回ホッコータルマエ ←東京大賞典(平成26年)

※昨年の東京大賞典の優勝馬はJRAのサウンドトゥルー。

◇同年の東京大賞典を制した帝王賞優勝馬は6頭

アズマキング(昭和56年)

テツノカチドキ(昭和62年)

アブクマポーロ(平成10年)

ファストフレンド(平成12年)

スマートファルコン(平成23年)

ホッコータルマエ(平成25年)

■武豊騎手が最多の4勝

※高橋三郎騎手、的場文男騎手が3勝で続く。

■川島正行調教師が最多の4勝

※川島正行調教師はネームヴァリュー、アジュディミツオー、フリオーソ(2回)で優勝。

■①番と⑥番が5勝で最多

馬番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯
1着	5	3	3	4	2	5	2	3	1	4	2	2	1	2	0	0
2着	2	2	7	1	5	5	3	3	1	0	2	2	2	1	1	0
3着	3	2	8	6	3	2	2	2	2	1	2	0	0	3	0	3

■⑧枠の8勝が最多

枠番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1着	5	4	7	2	4	7	2	8
2着	2	5	4	3	10	4	3	6
3着	4	2	8	9	1	5	3	7